



かみしろかわ 上代川遺跡の発掘調査

—古代～中世の鉄生産と弥生時代中～後期の集落—

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1. はじめに

今回の発掘調査は、三陸沿岸道路の施工に関連して、事前に行われる緊急発掘調査です。調査は、6,000㎡を対象に平成28年4月6日～9月末の予定で行っています。

上代川遺跡は、三陸鉄道野田玉川駅から西約500mに位置しており、丘陵の南向き緩斜面と低地部分に立地しています。

野田村では近年、震災復興に伴う発掘調査が増えています。これまでの調査から、縄文時代～中世までの幅広い時期の遺跡が見つかりました。中平遺跡では、縄文時代前期(約6,000～5,500年前)の狩り場と集落、古代(1,300～1,000年前)の集落、中世(700～500年前)の集落が確認されており、また、蒲沢・上泉沢からも古墳～平安時代の集落が見つかりました。中世では、伏津館跡(室町時代前半)や新館遺跡(安土桃山時代)などの城館があります。過去の調査も含めると、段丘上や低い丘陵の多くに長期に亘る人間活動の痕跡が認められました。

今回、上代川遺跡からは弥生時代中～後期(約2,000年前)の住居や土器、石器のほか、古代～中世の一時期と考えられる鉄生産に関わる遺構が見つかりました。これらの遺構・遺物の一部をご紹介します。



遺跡の位置(上が北)

2. 見つかった遺構と出土した遺物

今回の調査で確認した遺構は、弥生時代の竪穴住居跡2棟・土坑3基・焼土11基・集石1基・包含層1,000㎡、古代～中世の製鉄炉を伴う鉄生産関連遺構5基・炭窯(木炭焼成坑)32基・廃滓場2箇所・焼土1基です。出土した遺物は、縄文時代前期の土器小1箱、弥生時代前期～後期の土器大コンテナ4箱・石器中コンテナ4箱・土製品少量、古代～中世の羽口・炉壁中コンテナ6箱、鉄滓中コンテナ70箱、炭化物中コンテナ5箱です(遺構・遺物ともに平成28年7月14日現在の数量)。

弥生時代の遺構群は、主に斜面下位で見つかりました。竪穴のうち、径6mのやや大形で楕円形ものは住居跡とみられます。径2～3mの小形の竪穴からは弥生時代中期の赤く塗られた高環(たかつき)や土製品などが出土しており、祭祀の場としても利用



弥生土器の出土状況

された可能性があります。また低地では埋設土器(埋め甕)や複数の焼土など、沢付近での活動の跡が残されていました。出土した遺物は弥生時代前期～後期、特に中期後半(約2,000年前)の土器・石器などがまとめて出土しています。

古代～中世の鉄生産に関連する遺構群は、斜面上～下位にかけて見つかりました。このなかで斜面上～中位には、長さ6～8m・幅1～1.5mの長楕円形の炭窯(木炭焼成坑)が集中して確認されました。いずれの炭窯も等高線に沿うように作られており、堆積の状況から主に下から上に向かって構築されたと見られます。炭窯は、伏せ焼きと呼ばれる点火(炭化)した木材に土を被せて消火する方法で製炭を行

ったと考えられ、大半の炭窯は複数回使用されたと推察されます。斜面中位には、製鉄炉を伴う径6～8mの円形竪穴が見つかり、中央に製鉄炉、その脇に土坑が配置されています。製鉄炉は上部が壊されていて残存していませんが、1～2mの円形に被熱しており、炉底の状況から竪形の炉と考えられます。土坑には炭が置かれた痕跡があり、整然とした場の使い分けが成されていたと見られます。斜面下方には製鉄炉から鉄滓を排出させた痕跡も認められ、斜面下方の廃滓場へ鉄滓を捨てていたと考えられます。製鉄炉は現在5基見つかり、今後も増える見込まれます。斜面下位には、製鉄炉から排出された鉄滓や炉壁、羽口などを廃棄した廃滓場が確認されました。廃滓場は2箇所認められ、このうち1箇所は小さな谷の凹地を利用して、約20×25mの楕円形の範囲に捨てられています。最大約1mの深さがあり、鉄滓量から幾度も鉄生産が行われたことがわかります。

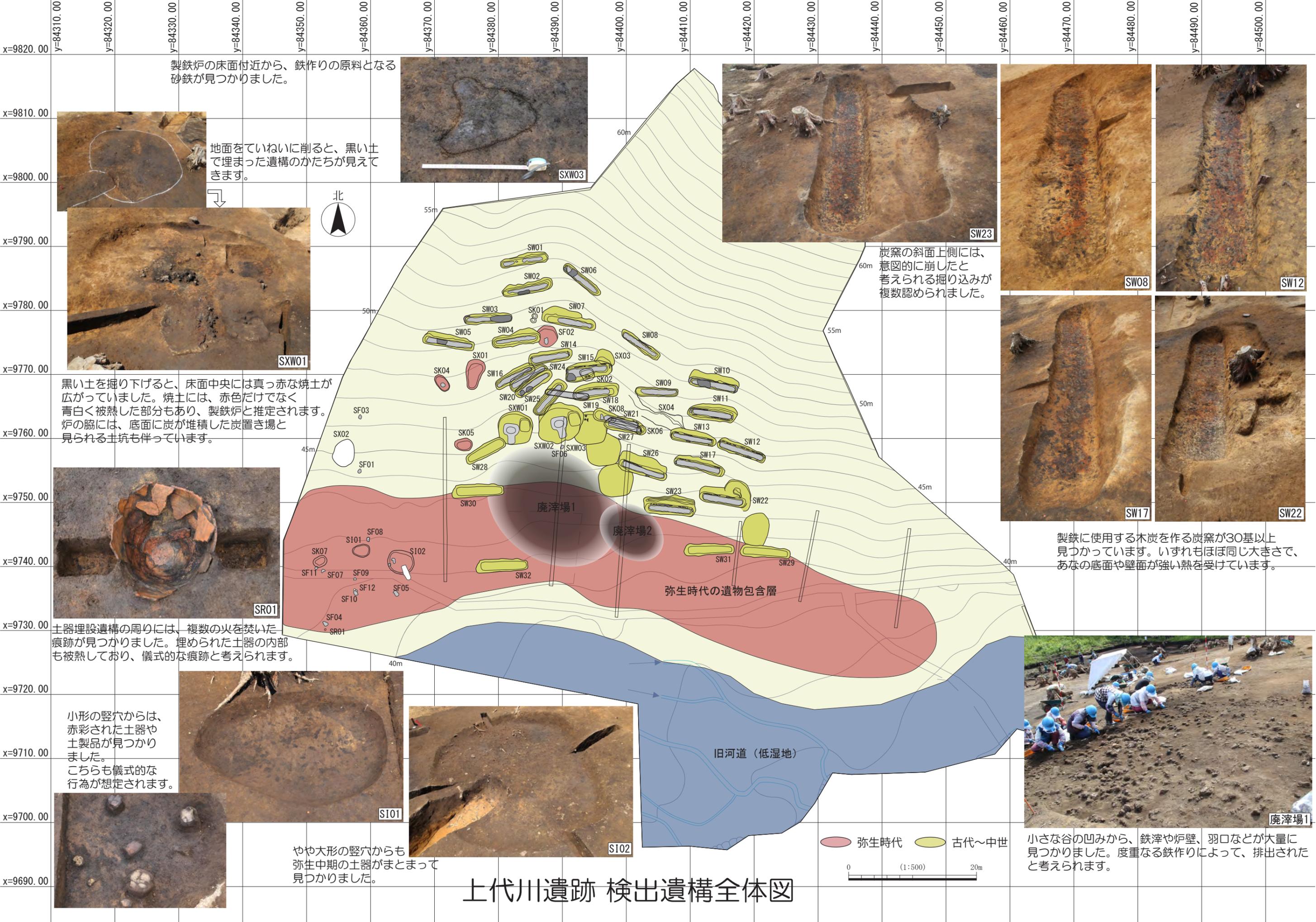
3. おわりに

今回の調査から、弥生時代中～後期には集落が営まれ、古代～中世には鉄生産が行われたことがわかりました。特に古代～中世の一時期には木炭生産も活発に行われ、複数の製鉄炉と大規模な廃滓場も確認されたことから、製鉄に関わる製炭から製錬の一連の作業が行われたと考えられます。調査はまだ途中であることから、今後も新しい発見があることが期待されます。出土した遺構・遺物などを詳しく調べて、弥生時代、古代～中世のそれぞれの営みに少しでも迫りたいと考えています。

最後に、今回の調査にご協力とご理解を頂きました地域の皆様、野田村教育委員会、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所をはじめ、関係者各位に深く感謝申し上げます。

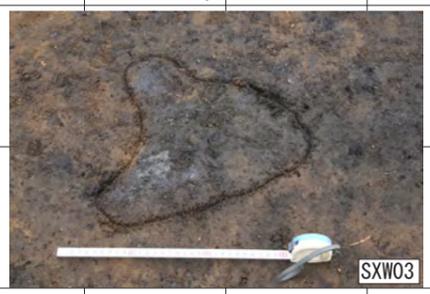
岩手県の遺跡略年表

年代	時期区分	遺物	主な事柄	主な調査遺跡	主な国・県指定遺跡	野田村の遺跡
BC300年	弥生時代	弥生土器	稲作が始まり、金属器が使用される	大船渡市上甲子遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢市湯舟沢遺跡 奥州市常盤広町遺跡		上代川遺跡
			卑弥呼が邪馬台国王となる			
AD300年	古墳時代	土師器	大和朝廷が国家統一を進める 古墳が各地につくられる	奥州市高山遺跡	(国)奥州市角塚古墳	蒲沢遺跡 上泉沢遺跡 古館山遺跡 中平遺跡
400年			仏教が伝わる 聖徳太子が摂政となる 大化改新がおこる	奥州市中平入遺跡 北上市猫谷地遺跡 奥州市膳性遺跡 花巻市熊堂古墳 宮古市長根Ⅰ遺跡	(県)矢巾町藤沢蝦夷森古墳 (国)北上市江釣子古墳群 (県)岩手町浮島古墳群 (県)山田町房の沢古墳群(出土品)	
600年			奈良に都がつくられる		(県)野田村野田竪穴住居跡群 (国)奥州市胆沢城跡 (国)盛岡市志波城跡 (国)矢巾町徳丹城跡	
800年	平安時代	須恵器	京都に都がつくられる 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	盛岡市台太郎遺跡 盛岡市芋田Ⅱ遺跡 盛岡市細谷地遺跡 宮古市島田Ⅱ遺跡	(国)野田村野田竪穴住居跡群 (国)奥州市胆沢城跡 (国)盛岡市志波城跡 (国)矢巾町徳丹城跡	上代川遺跡
1000年			前九年・後三年合戦がおこる 平泉藤原氏滅亡する	軽米町亘角子久保Ⅵ遺跡 二戸市飛鳥台地Ⅰ遺跡 一関市川崎の柵擬定地	(県)北上市新平遺跡 (国)金ヶ崎町島海柵跡 (国)奥州市衣川区長者ヶ原廃寺跡 (国)平泉町柳の御所遺跡・平泉遺跡群 (国)一関市骨寺村荘園遺跡	
1200年	鎌倉時代	属陶	鎌倉幕府ができる	盛岡市繫Ⅲ遺跡		伏津館跡 新館遺跡
1400年	室町時代	磁器	文永・弘安の役おこる 室町幕府ができる 応仁の乱おこる	花巻市笹間館跡 紫波町柳田館跡		
1600年	安土桃山時代	器	秀吉全国統一する	遠野市篠館跡	(国)二戸市九戸城跡	
}	}	}	}	}	}	}



製鉄炉の床面付近から、鉄作りの原料となる砂鉄が見つかりました。

地面をていねいに削ると、黒い土で埋まった遺構のかたちが見えてきます。



黒い土を掘り下げると、床面中央には真っ赤な焼土が広がっていました。焼土には、赤色だけでなく青白く被熱した部分もあり、製鉄炉と推定されます。炉の脇には、底面に炭が堆積した炭置き場と見られる土坑も伴っています。

炭窯の斜面上側には、意図的に崩したと考えられる掘り込みが複数認められました。



製鉄に使用する木炭を作る炭窯が30基以上見つかっています。いずれもほぼ同じ大きさで、あなの底面や壁面が強い熱を受けています。

土器埋設遺構の周りには、複数の火を焚いた痕跡が見つかりました。埋められた土器の内部も被熱しており、儀式的な痕跡と考えられます。



小形の竪穴からは、赤彩された土器や土製品が見つかりました。こちらも儀式的な行為が想定されます。

やや大形の竪穴からも弥生中期の土器がまとまって見つかりました。



小さな谷の凹みから、鉄滓や炉壁、羽口などが大量に見つかりました。度重なる鉄作りによって、排出されたと考えられます。

上代川遺跡 検出遺構全体図

